

新たな地域福祉活動の実践！

コロナ禍でもつながりを、できることから。

高崎市 上中居地区第一町内会 自治会長 **牧田さん**
 みんなの居場所コミュニティカフェ休さん 代表 **設楽さん**

「無事かえる」キャラクターで
 ジャンパーと帽子を作成



- コロナ前** ⇒ 町内会の集会所で週1回開催（カレーの日・居場所）。集会所では他にも手芸・料理・ストレッチ、男クラブ、卓球の日等の活動がある。町内の課題として、多世代の顔の見える関係がなかなかなかった。
- ウイズコロナ** ⇒ 感染対策を徹底（3密を避ける、料理をしない、換気、手洗い、消毒、マスク〔フェイスシールド〕）し、交流を維持。コロナの影響を一つのきっかけに、見守り活動の必要性を実感。9月から、助成金を活用し、高齢者や子どもなど町内会で多世代が関わる見まもり隊を開始。子どもの安全や地域防災の活動も兼ねながら実施。

■ 町内の新たな支え合い「**かみいち** 上一見まもり隊」発足！

- ▶ これまでも気になっていた孤立しがちな高齢者の家庭を定期的に見回り、声かけ運動を開始。
- ▶ 子どもの登下校時に交差点や危険な場所等の見守り活動、災害時の避難経路や防犯上危険箇所の見回りを実施。
- ▶ 見守りは、多世代が活動しやすいよう、平日昼間（週3回程度）と土曜日（月2回程度）に設定。「できる人が集会所に集まり、町内の人が無理なく参加できる」とし、見守りをきっかけに、町内の顔と顔が見える関係をつくりたい。

■ 見守りを通じたつながり作り

- ▶ 見守りは、色々な世代が参加し、新たなつながりができている。ウォーキングしながら、町内の方や児童等に挨拶をし地域を見守ることで健康増進にもなっている。犬の散歩やゴミ拾いをしながら見守り活動を行っている。
- ▶ 出掛けられる場所があることで、町内の交流を継続している。



健康体操

今後の予定

- コロナ禍でも居場所を継続的に実施していく。見守りは企業の協力を得られるように働きかけたい。
- 住民が互いに声を掛け合い、交流しながら健康維持に努めたい。



千支飾り製作

藤岡市 上落合婦人の集いの会（美土里地区）代表 **浅見さん**

- コロナ前** ⇒ 参加者の希望を聞きながら公会堂内でサロンを中心に活動。
- ウイズコロナ** ⇒ 屋外での活動に切り替えた。サロンで上落合公会堂周辺3ヶ所の花壇のお手入れをしている。ゴミ拾いや、家庭に持ち帰る用の寄せ植えをすることも。



青空の下で花壇のお手入れ

■ **ピンチをチャンスに！～お花で地域に彩りとつながりを～**

- ▶ 発想の転換で、顔の見えるつながりを大切にする方法を考え、元々、町内にあった花壇を有効に使い、体を動かし、おしゃべりをし、地域を花で明るくしようと取り組んでいる。
- ▶ 集まったら、短時間集中して、さっと解散！
 これまでも花に接してきたことから、屋外活動への変化には柔軟に対応できている。



冬の花で寄せ植え

今後の予定

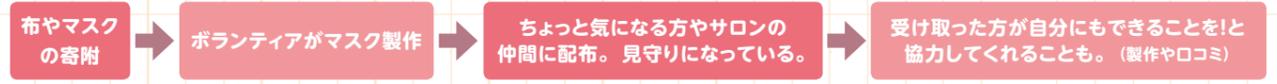
- 定期的開催していきたい。

■ **市内全域でNO密みまもりプロジェクト～マスクで安心つながりマスク～**

- ▶ 6月から生活支援体制整備事業の一環として、地域の方にマスクを届け、お互いに声を掛け、見守り合うプロジェクトを開始。市内8地区の協議体や民生委員、高齢者サロンの方達などにも呼びかけ、感染防止に配慮しながら、今できることを考え、地域の支え合いやつながりを続けていこうと活動している。外出も減る中、様子を伺いがてらマスクを届けて交流している。



〔下郷寿会〕からサロンがお休みで会えない地域の皆さんにマスクを届けました。



桐生市 第14区 梅田町1丁目
 瀬々らぎサロン 代表・第14区民生委員・児童委員 **砂田さん**

- コロナ前** ⇒ 特別養護老人ホーム内の地域交流スペースをお借りして介護予防体操や手芸など多様なプログラムを実施。
- ウイズコロナ** ⇒ 感染対策を徹底（3密を避ける・換気・マスク着用・検温・参加者の把握）し、手芸中心に。開催は週1回から月1回に、会場は地域の集会所へ、プログラムも簡易なものに。

■ **まずは行うことが大前提！感染対策しっかり！**
自宅で取り組む手芸

- ▶ 入居者を含めたサロンが実施できない状況が続いていた。参加者の交流をしたいという気持ちを大切に、出来ることの検討を始めた。
- ▶ 開催頻度が減ったことにより、手芸に必要な物品を渡し、次回までに作成してもらい、継続して自宅で取り組めるような仕組みとした。



福祉従事者に感謝を込めてマスクを作成

■ **マスク、シトラスリボン作り**

- ▶ 福祉従事者にマスクを作成したり、感染された方や医療従事者が、それぞれの暮らしの場所で「ただいま」「おかえり」と受け入れられる雰囲気を作り、思いやりがあり暮らしやすい社会を目指す「シトラスリボン」を作成した。リボンは、市役所窓口や社協にお渡しした。



地域・家庭・職場(学校)を示す3つの輪のシトラスリボンを作成



今後の予定

- 感染拡大防止策を徹底し、現在の形式でのサロン活動を継続していく。オンラインでのつながり作りも検討したい。
- コロナ禍はサロン活動や地域福祉活動の存在価値を改めて考えさせる機会となった。平穏な社会があつてのサロン活動。高齢者の交流の場のみならず、活動を通じた社会貢献の取り組みへのステップの場としていきたい。

取材の様子



太田市高齢者サロン



嬭宿村内高齢者サロン

＊サロンとは地域にお住まいの住民が気軽に集える、「仲間づくり」「健康づくり」等を行える場所のこと。

今年度、ふれあい・いきいきサロンブック別研修会に代わって、サロン活動を再開する際の留意点をまとめた動画を制作しています。完成後、行政、社協に配布予定です。コロナ禍という状況にも負けて工夫して活動している地域の方々の様子を、ぜひご覧ください。（太田市、嬭宿村、前橋市のサロン取材しました）

ふれあい・いきいきサロン
 活動事例DVD制作中

県社協の取り組み（地域福祉課）

新型コロナウイルス感染拡大は、私たちの生活に大きな影響を及ぼし、これまでと同じような地域福祉活動を進めていくことが難しくなっています。感染状況は長引くことが予想され、今後も「ウイズコロナ」で、留意しながら、住民を孤立させない活動を進めていくためにはどうしたらよいか、悩ましいところです。このような状況下でも、新たな取り組みを取り入れるなど、模索しながら活動を継続している事例の一部と県社協の取り組みを紹介いたします。